

令和6年度

管内概要



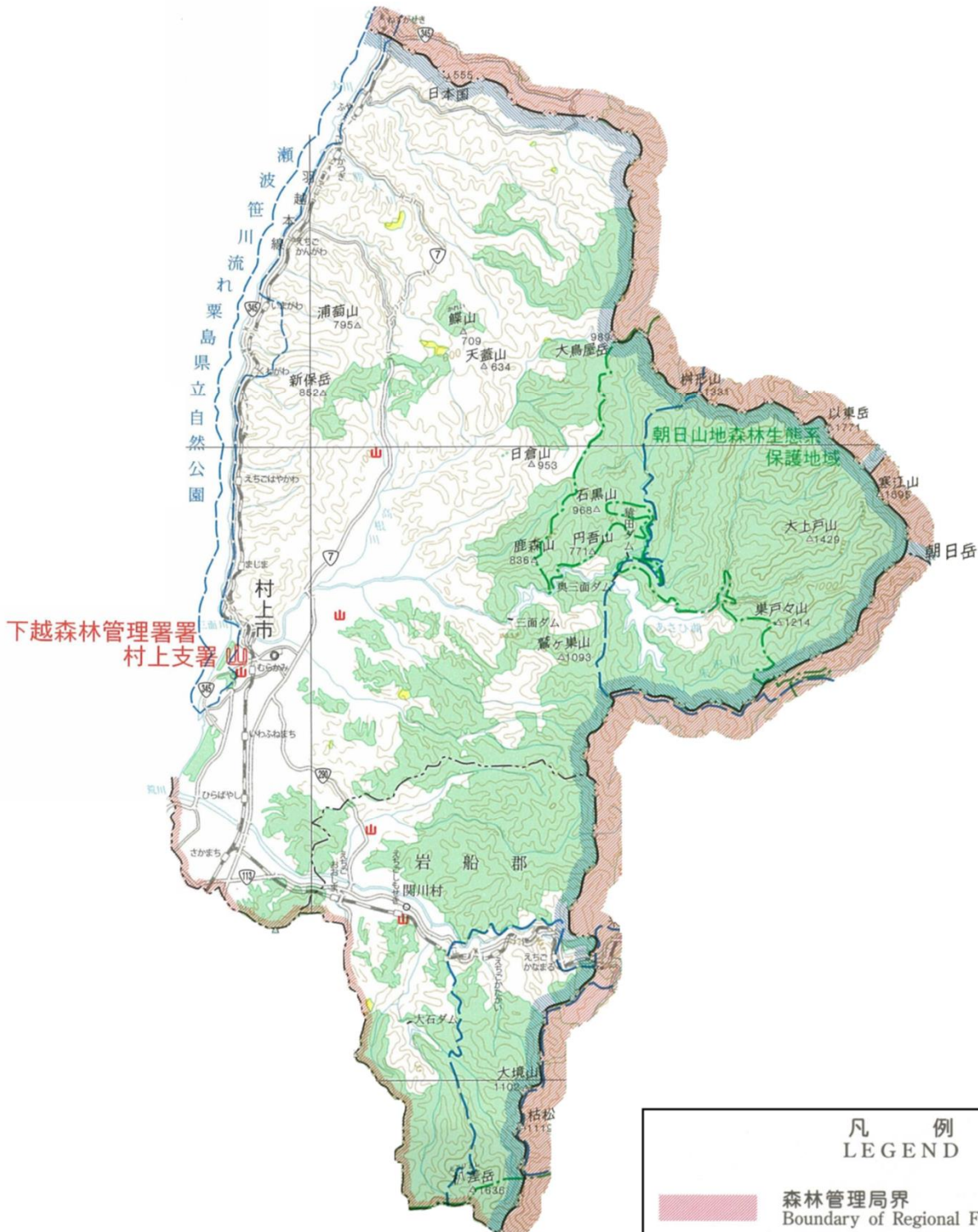
以東岳から望む朝日連峰の主稜線



関東森林管理局
下越森林管理署村上支署



管内の国有林



凡 例 LEGEND	
	森林管理局界 Boundary of Regional Forest Area
	森林計画区界 Boundary of Forest Plan Area
	森林管理署等界 Boundary of District Forest etc. Area
	森林管理署支署界 Boundary of District Forest Branch Area
	国 有 林 National Forest
	官行造林地 Government Reforestation Area
文 字	森林管理署等名 Name of District Forest etc. Area



下越森林管理署 村上支署の沿革

豊臣時代	村上義明領
徳川時代	村上藩領、一部旗本領、一部米沢藩領、一部天領
明治2年	藩籍奉還により国有林となる
明治2年7月	民部官所管
明治2年7月	民部官を民部省に改む
明治4年7月	大蔵省（現 財務省）所管
	大蔵省勸業寮～租税寮～地理課所管と変転
明治4年11月	新潟県所管
明治7年1月	内務省地理寮木石課所管
明治7年8月	内務省木石課を山林課と改称
	内務省地理寮山林課所管
明治10年1月	内務省地理寮廃止 地理局内山林課所管
明治12年5月	内務省山林局新設所管
明治14年4月	農商務省山林局新設所管
明治21年3月	新潟大林区署新設
	新潟大林区署 関谷小林区署所管
明治22年9月	長野大林区署 関谷小林区署所管
明治23年5月	村上派出所と関谷小林区署合併
	長野大林区署 村上小林区署所管
明治41年6月	新潟県岩船郡村上町大字本町102番地に庁舎新築
大正2年6月	東京大林区署 村上小林区署所管
大正13年12月	東京営林局 村上営林署所管
昭和22年4月1日	昭和22年勅令第105号により 前橋営林局 村上営林署となる
昭和36年11月28日	村上市大字村上3825番地（現在地）に 新庁舎完成し移転する
昭和54年2月1日	住居表示に関する法律に基づき町名変更により 村上市緑町三丁目1番13号となる
昭和60年1月31日	荒川治山事業所廃止
昭和62年2月1日	小見担当区事務所を女川担当区事務所に統合
平成4年3月31日	山北担当区事務所を塩野町担当区事務所に統合 担当区事務所を森林事務所に改組
平成5年3月31日	舘腰種苗事業所廃止
平成6年3月31日	坂町森林事務所を村上及び関谷森林事務所に分割統合
平成7年3月31日	三面森林事務所を舘腰森林事務所に統合
	大島製品事業所廃止
平成11年3月1日	平成11年2月26日公布農林水産省令第9号 （農林水産省組織規程の一部改正する省令）により 下越森林管理署 村上支署となる
令和3年2月24日	村上市緑町三丁目1番13号（現在地）に 新庁舎が完成する。（※令和2年10月19日事務所移転）



管内の概要

下越森林管理署村上支署は、村上市にあって、新潟県の北部に位置する1市2村（村上市・関川村・粟島浦村）にまたがる区域を管轄しています。

このうち、国有林（官行造林を含む）面積は、1市1村（村上市・関川村）に約6万6千haで、支署と4森林事務所（村上/女川・塩野町・舘腰・関谷）で管理経営しています。

葡萄山（795m）



以東岳（1771m）



西朝日岳（1814m）



杵差岳（1636m）



お城山から村上市街地を望む

当支署管内は、新潟県の最北部に位置し、気候は日本海型気候に属する多雪地帯であり、三面、大石、女川の奥地山岳部は雪崩等のため、基岩の露出している箇所が多く見られます。

【山系】

東部の朝日山系と南部の飯豊山系があり、いずれも急峻な山脈です。

朝日山系は、朝日山地、摩耶山地、葡萄山地の3列が並列し、その間に山間盆地が発達しています。朝日山地は、西朝日岳（1814m）を主峰に、枳形山（1331m）、寒江山（1695m）、竜門山（1688m）などが連なり、さらに北部は、山形県の麻耶山（1020m）に連続しています。葡萄山地は、葡萄山（795m）、新保岳（852m）等が日本海沿いに南北に連なり、その西麓は断層をなし「笹川流れ」の景勝地をつくり出しています。

飯豊山系は、杵差岳（1636m）をはじめ、頼母木山（1730m）、枯松山（1119m）、大境山（1102m）が連なり、杵差岳を除くそれぞれが山形県と界し、磐梯朝日国立公園特別地域に指定されています。

西部は日本海に面し、平野部と山岳部との接触部分では急激に地形が変わり、山岳部は一般に急峻で山容は概して複雑であり、山麓は一般に緩傾斜地となっています。

飯豊山（2105m）



【水 系】

北から、勝木川、三面川、荒川の三大河川に大別されますが、いずれも源流は朝日連峰から発するため延長は長く、日本海に注いでいます。

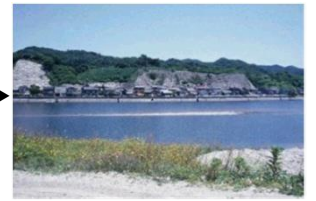
勝木川は、大川と近接し、北部団地から集水して大毎川、澄川等を合わせて日本海に注いでいます。

三面川は、当支署管内の中央部を集水区域としており、支流には朝日連峰から発する末沢川、泥又川、猿田川、門前川、高根川を有し、上流には発電ダムによる大規模な人造湖（奥三面ダム：あさひ湖）があります。

荒川は、山形県西置賜郡に源を発し、山形県小国町を流れ、当支署管内の南部を東西に貫流し、沼川、大石川、女川等の支流を合わせて日本海に注いでいます。



◀勝木川河口付近



三面川河口付近▶



◀荒川河口付近

羽 越 災 害

昭和42年8月28日、羽越地方一帯を襲った集中豪雨による大洪水。



最も甚大な被害を受けた坂町駅付近

【気 候】

日本海型気候に属し、年平均気温は12℃前後、年間降水量は平野部で2,200mm前後、山間部では2,400～3,000mmに達し、7月～9月にかけて集中豪雨に見舞われることが多く、中でも昭和41年7月及び昭和42年8月の羽越災害は、当地方に大きな被害をもたらしました。

なお、初霜は11月初旬で、晩霜は4月中旬頃、初雪は11月中旬で、晩雪は4月上旬頃です。また、積雪量は50～200cmですが、奥地山岳地帯の多いところでは4mにも達するところもあります。

【地質及び土壌】

地質は、粘板岩、砂岩を主とする古生層、それを貫いた花崗岩類からなっています。

土壌は、褐色森林土が大部分を占め、次いでポドゾル・ポドゾル化土壌、受蝕土の順となっており、一部に未熟土が見られます。一般に、褐色森林土は林木の生育に適していますが、酸性度が強く急峻な尾根などに分布するポドゾル土壌、雪崩発生地などの急傾斜地に多い受蝕土、海岸砂丘に分布する砂成未熟土などは、一度伐採すると森林復元に大変時間がかかることから、施業の実施にあたっては配慮が必要です。



令和4年8月新潟北部豪雨災害

▼災害名：令和4年8月豪雨災害

▼発生年月日：令和4年8月4日

▼観測雨量：559.5mm/最大24h 148mm/最大1h

▼被害状況：

8月3日から4日にかけて東北の日本海側や北陸地方では、前線の停滞と併せ、台風6号を起因とする熱帯低気圧の影響により、線状降水帯が発生し、新潟県北部では記録的な豪雨となった。新潟県関川村に設置されている下関気象観測所においては8月3日6時～4日6時までの24時間雨量が559.5mm、最大時間雨量148mm（8月4日1時～2時）となり、いずれも観測史上最多を記録した。

この豪雨により、荒川下流域の国有林、民有林等において広い範囲で山腹崩壊が発生し、国道113号やJR米坂線に崩落土砂が流出し、国道は一時全面通行止めとなった。（現在は解除されている）JRは現在も不通であり、不通区間では代行バスが運行されている。

また、市道や耕作中の農地に崩落土砂の流出や、一部の住宅に大量の土砂が流出したことにより、住民が避難している状況が一年以上続いた。（令和5年10月1日避難指示を解除）

このような状況を踏まえ初期段階では、地元説明会への参加、リエゾン派遣、緊急物資の提供、応急対策等を行った。

現在は、国交省、新潟県、村上市、関川村等の関係機関との情報交換や調整等を行いながら官民一体で早期復旧・復興に向け進めている。



村上市 小岩内 頭首工（復旧前）



村上市 貝附（復旧前）



村上市 小岩内 頭首工（復旧後）



村上市 貝附（復旧後）



【林況】

当支署管内の森林植生は、水平的には温帯に属し、ブナ、チシマザサ群落が広く分布しています。垂直的には、標高10m～1,800mまでの丘陵帯から高山帯にかけ広範囲であり、変化に富んでいます。

◎ 天然林

天然林は53,594haで、全面積の約81%を占めています。

平野丘陵地帯は、アカマツ、コナラ、ミズナラを主体として、クリ、カエデ類が混生する幼、壮齢の二次林ですが、人工林同様の松くい虫被害に加えて、カシノナガキクイムシによるコナラの被害も散見されています。

山岳地帯は、ブナを主体にミズナラ、クリ、トチノキ、ケヤキ等の混生した林分で、尾根筋にはアカマツ、ヒメコマツ、ネズコ等が点生しています。

高根地区の奥地及び三面地区猿田川流域の一部緩傾斜地には、ブナ、トチノキ等の大径優良林分が見られますが、他は多雪地帯に加え急傾斜地が多く、疎林状態で雪崩が発生し易い植生群落となっています。標高1,200mより高くなるに従って、ブナ林は次第に低木化し、亜高山帯の代表植生であるミヤマナラを主体とする低木林に移行しています。

稜線部には、亜高山帯の高山低木林、高山草原等が発達し基岩の露出も見られます。



◎ 人工林

人工林面積は5,381haで、全面積の約8%に過ぎません。

樹種別では、スギ67%、アカマツ12%、その他21%となっています。令級別では、IV令級以下の幼齢林が3%、VからVIII令級が20%、IX令級以上が77%となっており、主・間伐適齢期の林分が多くなっています。

スギは、奥地山岳地帯を除く広範囲に植栽されており、全般に良好な生育状況ですが、一部には雪による根曲がり、幹割れ等の被害が見られます。

アカマツは、村上、関谷部内の丘陵地帯に多く、生育状況は中庸ですが、松食い虫被害の拡大防止のため海岸林を中心に空中散布や地上散布、植栽等を行っています。



特徴ある取組

美しい森林づくり “市民参加の森林づくり！”

瀬波夕日の森

平成8年度から「白砂青松」の美しい松林再生活動が始まり、平成12年3月には、市民による自主的な森林整備活動の場として約76haを設定し、村上市長と協定を締結しました。

当初は瀬波温泉旅館経営者でつくる「潮風会」が発起人となり、松林の再生を目的とした活動を開始、協定締結後も瀬波地区区長会やボランティアによる下刈、清掃などの活動のほか瀬波小学校生徒による植樹などが行われました。

現在では、瀬波地区区長会、県立村上中等教育学校生徒を中心に地域住民による一般ボランティアも参加の下、毎年の恒例行事として、松林再生に向けた森林づくりを行っています。

令和4年には、県立村上中等教育学校が、これまでの松林の保全活動が評価され、林野庁の「国民の森林づくり推進功労者」に選出されました。

表彰は全国で5校、関東森林管理局管内では唯一の表彰となりました。





新たなる「さけの森林」

「さけの森林」

三面川のサケを守るためには豊かな川、豊かな海、それを生み出す豊かな森林が必要であることから、平成11年11月11日（鮭の日）に「さけの森林づくり推進協議会」が設立され、翌年の平成12年10月から、森林整備活動を開始、その活動の輪は年々広がり、今では参加者が100名を超すまでになりましたが令和元年の台風19号等により会場までの連絡道路が被災し3年連続で活動が中止となっております。

当初設定された区域は奥地であり、長年の活動により現地の整備も進み、さけの森林づくり推進協議会も高齢化が進んだことから移動もしやすく、子供たちでも利用のしやすい場所で本活動を行うことが出来ないか等の要望があったことから、新たな場所の選定に村上支署も取り組みました。

新たな「さけの森林」

新たな「さけの森林」として、熊登山409-1国有林1035林班い小班外30（33.49ha）を令和4年8月1日に「さけの森林づくり推進協議会」と協定を締結いたしました。

協定締結により令和4年10月8日にさけの森林づくり推進協議会により森林整備イベント「さけの森林づくり活動」が再開されました。

令和5年のイベントでは、地元の小学生や朝日みどりの少年団のほか、村上市の交流都市である東京都荒川区からの参加者により、村上堆朱の原材料となるホノキの植栽が行われました。

また、炭焼きの説明や間伐、枝打ち体験等が行われました。

令和4年8月1日協定締結



「さけの森林づくり活動」イベント





☆ 森林共同施業団地の設定

村上市笹平地区の森林・林業の再生に向け、森林の多目的機能の高度発揮と資源の循環利用を図るため、協定者（下越流域森林・林業活性化センター、(有)阿部林業工務店、下越森林管理署村上支署）が連携・協力して団地化を推進し、合理的な路網の整備及び効率的な森林施業の実施に取り組むことを目的に、平成25年2月に新潟県内初めての森林共同施業団地協定を締結しました。

平成27年3月には協定を延長すると共に、新たに関川村内須川地区に於いて協定者（下越流域森林・林業活性化センター、新潟県農林公社、関川村森林組合、下越森林管理署村上支署）による新たな協定を締結し、今後、両地域の対象森林において、合理的な森林作業道の開設や効率的な間伐などの森林整備を民有林と国有林が一体となり取り組んでいくことにしています。



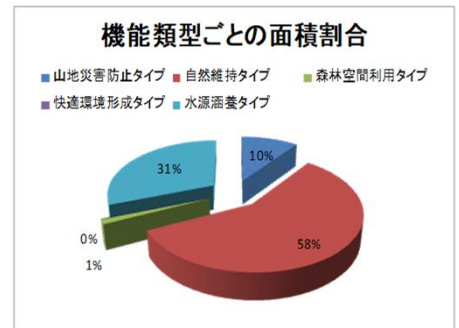
共同施業団地の設定にあたっての現地検討会



協定3者による調印式（笹平地区）

機能類型に応じた国有林の管理経営

国有林では、重視される機能に応じて森林を5つに区分し、適切かつ効率的な管理経営を行っています。この地域は、豊かな自然環境と魅力的な山岳景観を背景に、磐梯朝日国立公園、瀬波笹川流れ粟島県立自然公園等に指定され、加えて、原始的な自然状態が維持されている地域で、動植物の宝庫でもあることから、朝日山地森林生態系保護地域などの保護林等が設定されており、「自然維持タイプ」の面積が最も多くなっています。



機能類型は、以下の5つに区分されます。（面積）

- ★【山地災害防止タイプ】土砂の流出・崩壊、雪崩、落石等の山地災害による人命・施設の被害の防備その他の災害に強い国土基盤の形成に係る機能（6,762ha）
- ★【自然維持タイプ】原始的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等生物多様性の保全に係る機能（38,289ha）
- ★【森林空間利用タイプ】スポーツ又はレクリエーション、教養文化、休養等の活動の場や優れた景観の提供に係る機能（879ha）
- ★【快適環境形成タイプ】騒音の低減、大気の浄化等による気象の緩和等人間の居住環境を良好な状態に保全する機能（94ha）
- ★【水源涵養タイプ】国民生活に欠かせない良質で豊かな水の供給に係る機能（20,303ha）

国土保全等の取組



管内の国有林は、概して山形県境に接し、三面川上流地域及び荒川東南部に団地を形成しており、管内の北部から南部にかけて団地が広く分布しています。

これら、国有林に近接又は団地に包囲された集落の数も多く、従って、国有林に対する依存度も高いことから、水土保持機能を高めるため、適切な間伐、育成複層林施業等を実施するとともに、治山事業を積極的に推進しています。



生物多様性の保全の取組

保護林制度等により、原生的な自然環境の保護・保全を図るほか、野生生物の移動経路を確保するため、保護林を中心に「緑の回廊」を設定し希少種の保護や遺伝的な多様性を確保しています。



林産物の安定供給の取組



公益的機能の維持増進に配慮した森林整備を行いつつ、地域における需要動向等を踏まえ、林産物を持続的に生産しています。

利用可能な径級に達した人工林が増加してきていることから、搬出路の整備やコスト縮減を図り、木材の安定供給に取り組んでいます。



管内の見どころ

瀬波温泉(村上市)

日本海に面し、海に沈む雄大な夕日を眺めながら入れる人気の海浜温泉です。

この温泉は、明治37年石油掘削中に熱湯が噴出したのが始まりで、温泉は95℃の高温で1日約3600kと豊富な湯量を誇っています。

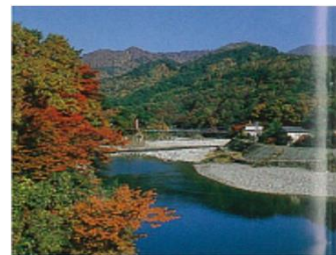


高瀬温泉郷



雲母 温泉郷

鷹の巣温泉郷



桂の関温泉



SPA 温泉

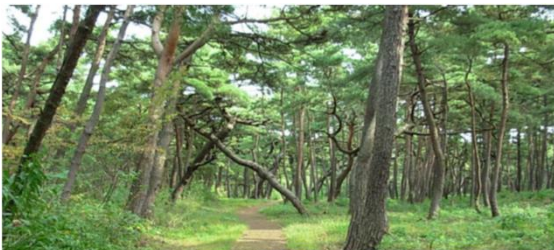
勝木ゆり花温泉(旧山北町)

町内の憩いの場として親しまれ、内外にも人気のゆり花温泉「ゆり花会館」、そして、人と自然のぬくもり交流を体感できる交流の館「八幡」は人気のスポットです。



お幕場いこいの森(旧神林村)

村上藩主やその奥方、奥女中が園遊、行楽に訪れた地と言われています。毎年5月に茶会が開かれます。昭和62年(1987)には、「日本の白砂青松百選」に選ばれました。



朝日きれい館(旧朝日村)

地下1,300mから湧き出す豊富な温泉を利用した県北の本格的な健康増進施設です。

隣接して、朝日まほろぼ温泉もあります。



笹川流れ(旧山北町)

国指定名勝天然記念物。延長11kmの雄大な海岸美を誇る笹川流れは、眼鏡岩・びょうぶ岩・ニタリ岩・恐竜岩・蓬莱山などと名付けられた奇岩が聳え、四季の変化とともに、様々な表情を見せてくれます。



◎笹川流れ
遊覧船

恐竜岩 ◎



Beauty Spot 景勝地

鈴ヶ滝風景林(旧朝日村)

高根集落より8km。昔、源義経公が奥州征伐の折、駒を止めて観賞したと伝えられる落差55m幅10mの瀑布です。平成2年3月30日、日本の滝百選に選ばれました



鷹の巣つり橋(関川村)

新潟の橋50選に選定された景勝地で、紅葉や新緑と荒川の渓谷美は見事です。



お幕場大池公園(旧神林村)

白鳥の飛来地として知られる砂丘湖です。



村上・瀬波・岩船大祭(村上市)

Festival まつり

村上大祭 7月6日(宵祭)・7日(本祭)
県下三大祭の一つである村上大祭は、城下町村上ならではの勇壮な祭りで、彫刻を施し、村上伝統の堆朱・堆黒の粋をこらした19台のオシャギリ(屋台山車)が市内を巡行します。



瀬波大祭 9月3日(宵祭)・4日(本祭)

瀬波の町に秋を告げる瀬波大祭は、西奈弥神社の祭礼で、先頭の浜町の屋台には、神社の祭神である気比大神に由来して、気比丸(お船様)が乗せられ、5台の屋台は夜遅くまで町内を練り歩き、漁師町の心意気を感じられます。



岩船大祭 10月18日(宵祭)・19日(本祭)

岩船大祭は、海の安全、商売繁盛、大漁を願う「船霊祭」です。漁港の祭りと思わせるのは、各町の屋台9台を従える先頭の「お船屋台」。石船神社から屋台に移されるお舟は、漆を何度も重ね塗りした豪華なものです。



大したもん蛇まつり(関川村)

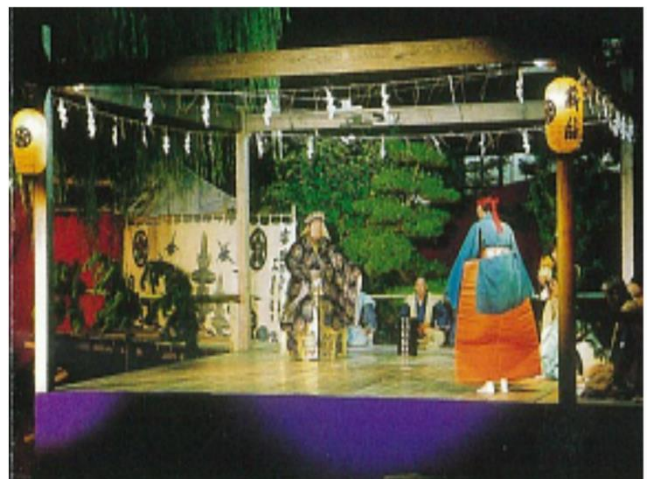
村内54集落が竹とワラで、それぞれ一部分を作ってつなぎ合わせた世界一長い蛇として、ギネスに認定された長さ82.8m(昭和42年8月28日の羽越大水害に因む)、重さ2トンの大蛇を約500人の担ぎ手とともに練り歩く大蛇パレードで、毎年8月の最終日曜日に開催されます。



大須戸能(旧朝日村)

百数十年にわたり、大須戸集落に伝えられてきた農民芸能で、観世流という流派を受け継ぎ、昭和30年(1955)に県無形文化財に指定されました。

毎年4月 3日「定期能」
8月15日「薪能」



魚つき保安林(村上市)

新潟県随一の魚つき保安林が三面川河口にあります。タブノキなどが生い茂るこの森は、江戸時代より「サケを呼ぶ森」として知られ、村上藩は、この森林を「お留山」とし、山林奉行を置き禁伐にして、大切に保存してきました。

明治44年(1911)5月9日、魚つき保安林として、特に指定されました。



村上城址(村上市)

中世・近世を通じて、揚北地方(越後北部)における中心的な役割を果たしてきたお城で、標高135mの臥牛山に築かれた平山城です。市民からお城山と呼ばれ親しまれています。



Culture 名所・旧跡

ゴールドパーク鳴海(旧朝日村)

慶長時代の隠し金山で、今も、当時のタヌキ堀(手堀り)や荒々しい岩肌が、そのまま残る謎に包まれた金山跡です。



若林家住宅(村上市)

村上の武家屋敷では、唯一国指定(昭和52)されている建物で、東西方向に棟を持つ居室棟と南北方向に棟を持つ座敷棟を接続した曲屋・寄棟造りの茅葺き住宅です。



平林城址(旧神林村)

国指定の史跡であって、中世小泉庄(岩船郡全域)南部にあった豪族色部氏の居城です。



渡辺邸(関川村)

江戸時代の大庄屋屋敷。3千坪の敷地に5百坪の大邸宅で、国の重要文化財の指定を受けています。NHKドラマ「蔵」のロケ地としても有名です。



Traditional 物産・特産 & Gourmet 味覚

村上木彫堆朱(村上市)

丹念に彫刻された木製素地に漆を何回も重ねて作る村上木彫堆朱は、華やかさの中にも落ち着きの感じられる国の伝統的工芸品で、生活に使える工芸品としても人気があります。



村上茶(村上市)

村上市は日本における茶栽培の北限地として古くから知られており、他の産地よりも日照時間が短く、その為に渋みの元であるタンニンの少ないまろやかな味わいのお茶として、玉露等の茶を生産しています。



猫ちぐら(関川村)

猫の家として、ワラでつくった手作り品。ワラのぬくもりが好評で、インテリアとしても人気があります。



しな布(旧山北町)

1400年以前から伝えられていると言われる「しな布」は、シナノキの皮を糸にしています。



鮭料理(村上市)

村上の鮭料理は、何と百を超えるほどと言われています。この伝統の味を今に伝えるお店が数多くあります。



村上牛(村上市)

平成8年度全国肉牛共励会優秀賞受賞。テレビの人気料理番組でも絶賛されたひと味違う牛肉です。おいしさは、霜降りは勿論のこと、その脂の質にあります。特に、ステーキの味は、誰もが納得いただけます。



清酒

きれいな水と豊かな大地で育まれた美味しいお米からできるこの地方の清酒は、名酒ぞろいと評判です。





管内の管理面積と公益林（第6次国有林野施業実施計画による）

★ 市町村別の管理面積

（単位：ha）

市町村	区分	国有林野面積		官行造林地	合計	
		要存置林野	不要存置林野			
村上市		46,590		2	179	46,771
関川村		19,737				19,737
合計		66,327		2	179	66,508

★ 森林事務所別の管理面積

（単位：ha）

森林事務所	関係市町村	国有林野面積		官行造林地	合計
		要存置林野	不要存置林野		
塩野町	村上市	6,818		148	69,967
館腰	村上市	33,471			33,471
村上	村上市	5,503	1	31	5,534
女川	関川村	9,287	0		9,287
関谷	村上市	798	1		799
	関川村	10,449			10,449
計		11,248	1		11,248
	村上市	46,590	2	179	46,771
	関川村	19,736	0	0	19,736
合計		66,327	2	179	66,508

（注）単位以下を四捨五入した関係で計に一致しない場合がある。以下同じ。

★ 保安林

（単位：ha）

計	水源涵養	土砂流出防備	土砂崩壊防備	防風	干害防備	なだれ防止	保健
59,807	52,500	6,935 (1,131)	45	259	68	(4)	(259)

（注）（ ）は兼種面積で他の保安林に計上されていることから、重複を避けた面積である。

★ 自然公園等

(単位：ha)

自然公園		史跡名勝 天然記念物	鳥獣保護区 特別保護地区	県自然環境 保全地域 特別地区	
国立	県立				
23,334	123	53	4,050	152	
磐梯朝日	瀬波笹川流れ 粟島	平林史跡		鈴ヶ岳 45	鳴海山 107

レクリエーションの森				
自然 観察教育林	森林 スポーツ林	野外 スポーツ 地域	風景林	その他
(53) 350	86	34	15	12
瀬波いこいの森 123 お幕場いこいの森 174 平林史跡の森 53	荒川町民福祉の森 86	鳴海森林公園	鈴ヶ滝	野営場 11.98 避難小屋 0.07 展望所 0.10

(注) 自然観察教育林の () 書きは史跡名勝天然記念物で内書。

★ 保護林及び緑の回廊

(単位：ha)

朝日山地森林生態系保護地域			飯豊山周辺森林生態系保護地域		
保存地区	保全利用 地区	計	保存地区	保全利用 地区	計
12,293	9,426	21,719		670	670

緑の回廊
鳥海朝日・飯豊 吾妻
6,698

★ 国民参加による森林整備等 (単位：ha)

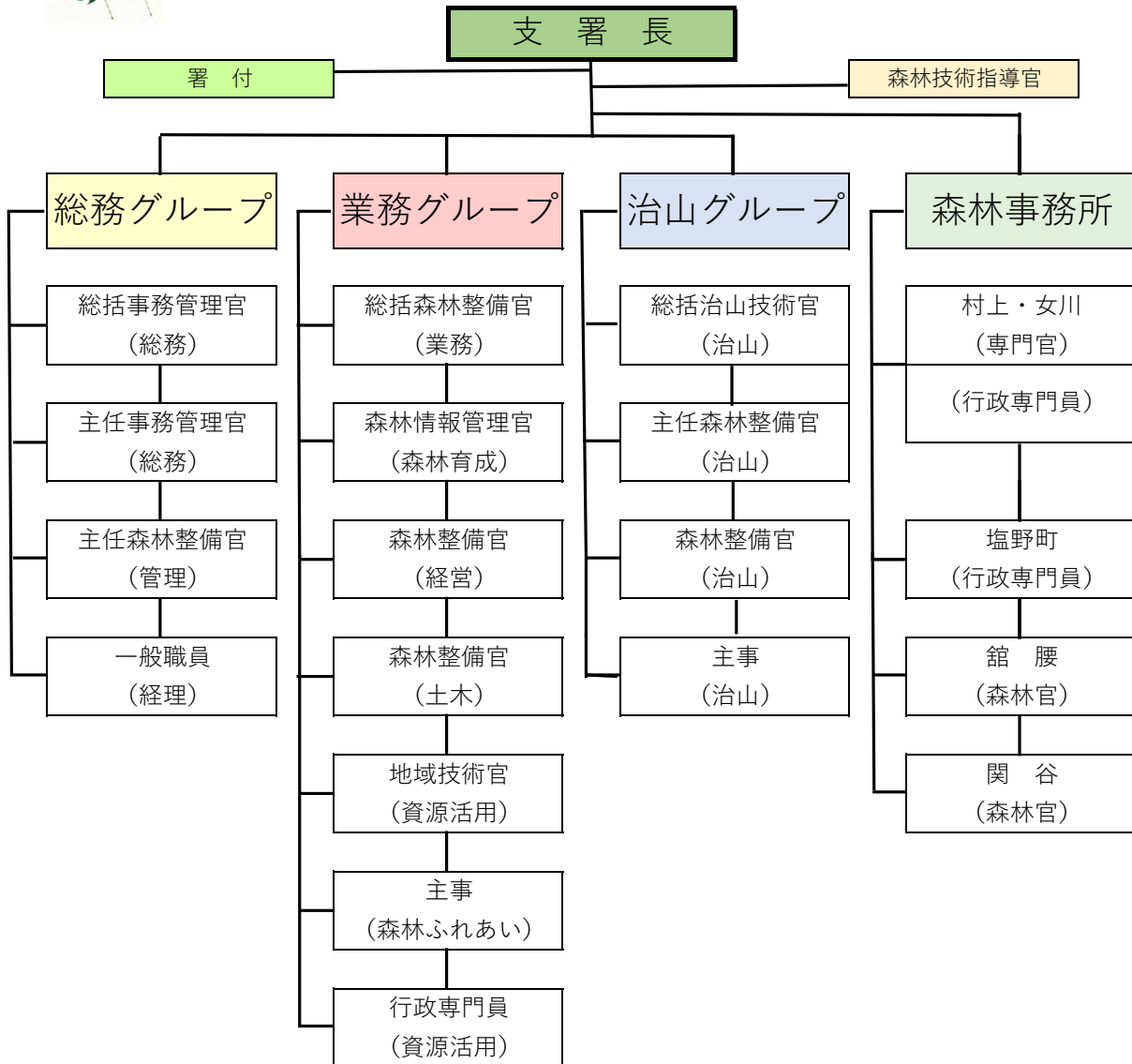
ふれあいの森等		
瀬波夕日の森	さけの森林	新たな さけの森林
* 76	* 282	* 33

(注) 面積欄の*印は、協定等を締結しているもの。



組織機構及び職員配置状況

令和6年4月1日現在



官署別	職群別		管理職	普通職	行政専門員	森林技術員
支署長	1	1				
署付	1			1		
森林技術指導官	1			1		
総務グループ	4	1		3		
業務グループ	7			6	1	
治山グループ	4			4		
小計	18	2		15	1	
村上・女川森林事務所	2			1	1	
塩野町森林事務所	1			1	1	
館腰森林事務所	1			1		
関谷森林事務所	1			1		
小計	5			3	2	
計	23	2		18	3	

歴代署長等名簿

歴代	職 名	氏 名	在 職 期 間	
初代	小林区署長	和 田 小太郎	明治24年 5月～明治28年 6月	4年 1ヵ月
2	〃	野 村 信 就	明治28年 7月～明治29年 9月	1年 3ヵ月
3	〃	赤 津 誠 之	明治29年10月～明治35年 5月	5年 8ヵ月
4	〃	豊 岡 克 政	明治35年 6月～明治42年 6月	7年 1ヵ月
5	〃	窪 田 實太郎	明治42年 7月～明治44年 2月	1年 8ヵ月
6	〃	林 新 助	明治44年 3月～大正 3年 8月	3年 6ヵ月
7	〃	小 林 範 次	大正 3年 9月～大正 6年 1月	2年 5ヵ月
8	〃	工 藤 廣 蔵	大正 6年 2月～大正 8年 2月	2年 1ヵ月
9	〃	鈴 木 榮太郎	大正 8年 3月～大正10年 1月	1年11ヵ月
10	〃	横 澤 清	大正10年 1月～昭和 3年 3月	8年 3ヵ月
11	営林署長	山 田 清兵衛	昭和 3年 4月～昭和 6年 3月	3年 0ヵ月
12	〃	有 馬 省 吾	昭和 6年 4月～昭和 8年 3月	2年 0ヵ月
13	〃	荒 井 元	昭和 8年 4月～昭和12年 4月	4年 1ヵ月
14	〃	根 岸 徳太郎	昭和12年 5月～昭和16年 3月	3年11ヵ月
15	〃	十 亀 綾太郎	昭和16年 4月～昭和17年 3月	1年 0ヵ月
16	〃	田 近 三 郎	昭和17年 4月～昭和21年 3月	4年 0ヵ月
17	〃	一ノ倉 辰 夫	昭和21年 4月～昭和23年 9月	2年 6ヵ月
18	〃	北 條 進	昭和23年10月～昭和27年 3月	3年 6ヵ月
19	〃	石 原 直 重	昭和27年 4月～昭和28年 3月	1年 0ヵ月
20	〃	山 下 敏 夫	昭和28年 4月～昭和29年 6月	1年 3ヵ月
21	〃	高 橋 二 郎	昭和29年 7月～昭和30年11月	1年 5ヵ月
22	〃	高 橋 義 雄	昭和30年12月～昭和32年 1月	1年 2ヵ月
23	〃	秋 葉 公	昭和32年 2月～昭和33年 3月	1年 2ヵ月
24	〃	飯 田 隆 二	昭和33年 4月～昭和33年 8月	0年 4ヵ月
25	〃	石 井 伊 助	昭和33年 9月～昭和34年 8月	1年 0ヵ月
26	〃	武 井 義 治	昭和34年 9月～昭和37年 5月	2年 9ヵ月
27	〃	兼 子 信 雄	昭和37年 6月～昭和40年 7月	3年 2ヵ月
28	〃	滝 澤 宏	昭和40年 8月～昭和43年 3月	2年 8ヵ月
29	〃	長 瀬 健	昭和43年 4月～昭和46年 8月	3年 5ヵ月
30	〃	菅 野 時太郎	昭和46年 9月～昭和48年 3月	1年 7ヵ月
31	〃	有 園 哲 也	昭和48年 4月～昭和50年 7月	2年 4ヵ月
32	〃	出 川 和 市	昭和50年 8月～昭和53年 8月	3年 1ヵ月
33	〃	高 崎 善 榮	昭和53年 9月～昭和55年 3月	1年 7ヵ月
34	〃	菅 野 寛	昭和55年 4月～昭和57年 3月	2年 0ヵ月
35	〃	藤 田 榮	昭和57年 4月～昭和59年 7月	2年 4ヵ月
36	〃	橋 本 亮 一	昭和59年 8月～昭和61年 7月	2年 0ヵ月
37	〃	篠 原 雪 雄	昭和61年 8月～平成 1年 3月	2年 8ヵ月
38	〃	中 島 義 雄	平成 1年 4月～平成 3年 7月	2年 4ヵ月
39	〃	本 田 守 邦	平成 3年 8月～平成 5年 8月	2年 1ヵ月
40	〃	佐 藤 价 平	平成 5年 8月～平成 8年 4月	2年 9ヵ月
41	〃	大 蔵 強	平成 8年 4月～平成11年 2月	2年11ヵ月

歴代署長等名簿

歴代	職名	氏名	在職期間	
初代	支署長	齋藤行男	平成11年 3月～平成13年 3月	2年 1ヵ月
2	〃	梨本正昭	平成13年 4月～平成15年 3月	2年 0ヵ月
3	〃	川脇多久男	平成15年 4月～平成17年 3月	2年 0ヵ月
4	〃	目黒文彦	平成17年 4月～平成20年 3月	3年 0ヵ月
5	〃	岩佐利昭	平成20年 4月～平成21年 9月	1年 6ヵ月
6	〃	藤原寿昭	平成21年10月～平成23年 3月	1年 6ヵ月
7	〃	森内賀久	平成23年 4月～平成25年 3月	2年 0ヵ月
8	〃	川野邊達也	平成25年 4月～平成27年 3月	2年 0ヵ月
9	〃	相原慎二	平成27年 4月～平成29年 3月	2年 0ヵ月
10	〃	高木敏	平成29年 4月～平成30年 9月	1年 6ヵ月
11	〃	渡邊修	平成30年10月～令和 3年 3月	2年 6ヵ月
12	〃	金子里志	令和 3年 4月～令和 6年 3月	3年 0ヵ月
13	〃	後藤寿也	令和 6年 4月～令和 年 月	

下越森林管理署村上支署庁舎

昭和36年に建設された旧庁舎は、60年に及ぶ年月により老朽化が著しいため、同一敷地内で建替工事を実施していましたが、令和3年2月に新庁舎（木造2階建、建築面積333.73平方メートル、延床面積446.79平方メートル）が完成しました。

庁舎周辺は、国指定史跡「村上城址」、国指定重要文化財「若林家住宅（武家屋敷）」等を擁する地域となっていることから、新庁舎の外装は色彩に配慮し、市内に見られる城下町の風情漂う黒板塀をイメージし、腰壁には豆砂利を配するなど趣のある景観に寄せ、勾配屋根や格子窓等のデザインを取り入れたものとなっています。

庁舎内部は、事務室、ホール、会議室等の腰壁や天井の一部に杉羽目板張りを採用し、階段を構成する部材にはCLT材（1.56立方メートル）を採用するなど、87.8立方メートルの国産材を使用しています。事務室内には構造上省くことのできない柱が2本露出しており、これらを丸柱とすることで、木の持つ柔らかな雰囲気醸し出しているとともに、木材を使用している部位は自然の色合いを素のまま生かせるように彩色等を行わず、来客者に木材の表情を感じていただけるものとなっています。



下越森林管理署 村上支署

〒958-0033 新潟県村上市緑町三丁目1番13号 TEL:0254-53-2151

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/murakami/index.html>